

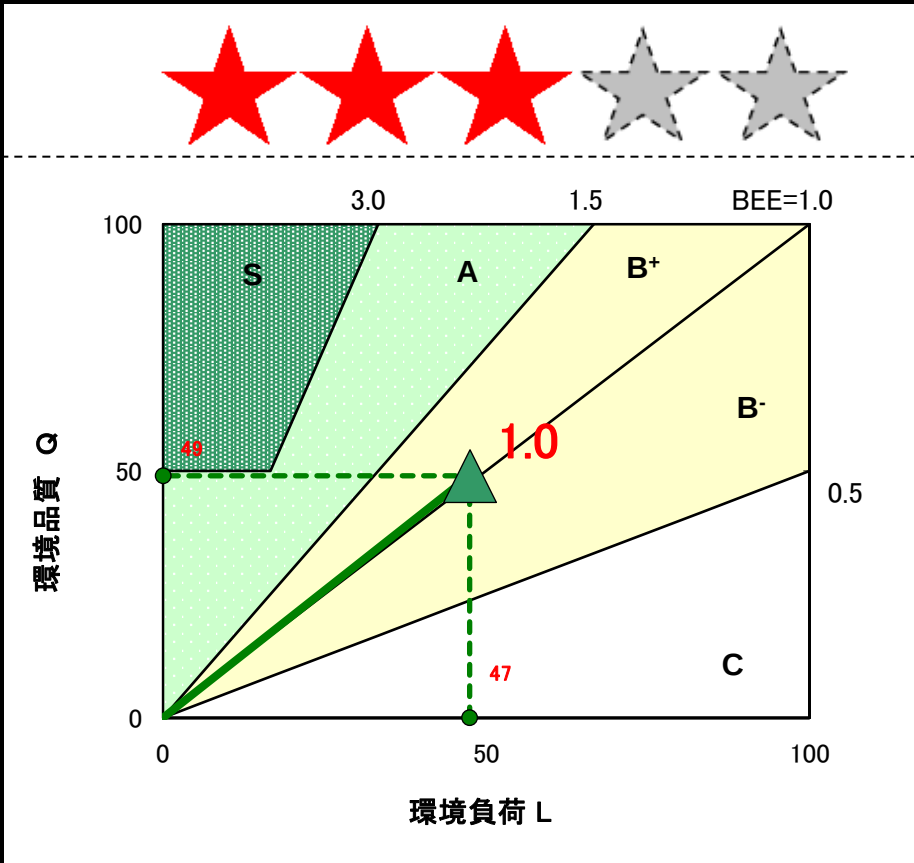
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)サービス付き高齢者向け住宅	階数	地上7階、地下0階
建設地	熊本市北区室園町290番、291番	構造	RC造
用途地域等	近隣商業	平均居住人員	200 人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年4月 予定	評価の実施日	2022年11月10日
敷地面積	1,515 m ²	作成者	株式会社 建吉組一級建築士
建築面積	805 m ²	確認日	2022年8月24日
延床面積	3,988 m ²	確認者	株式会社 建吉組一級建築士



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

■BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

90%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価	評価点
	73

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

76.1

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

65.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

74.7

■熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

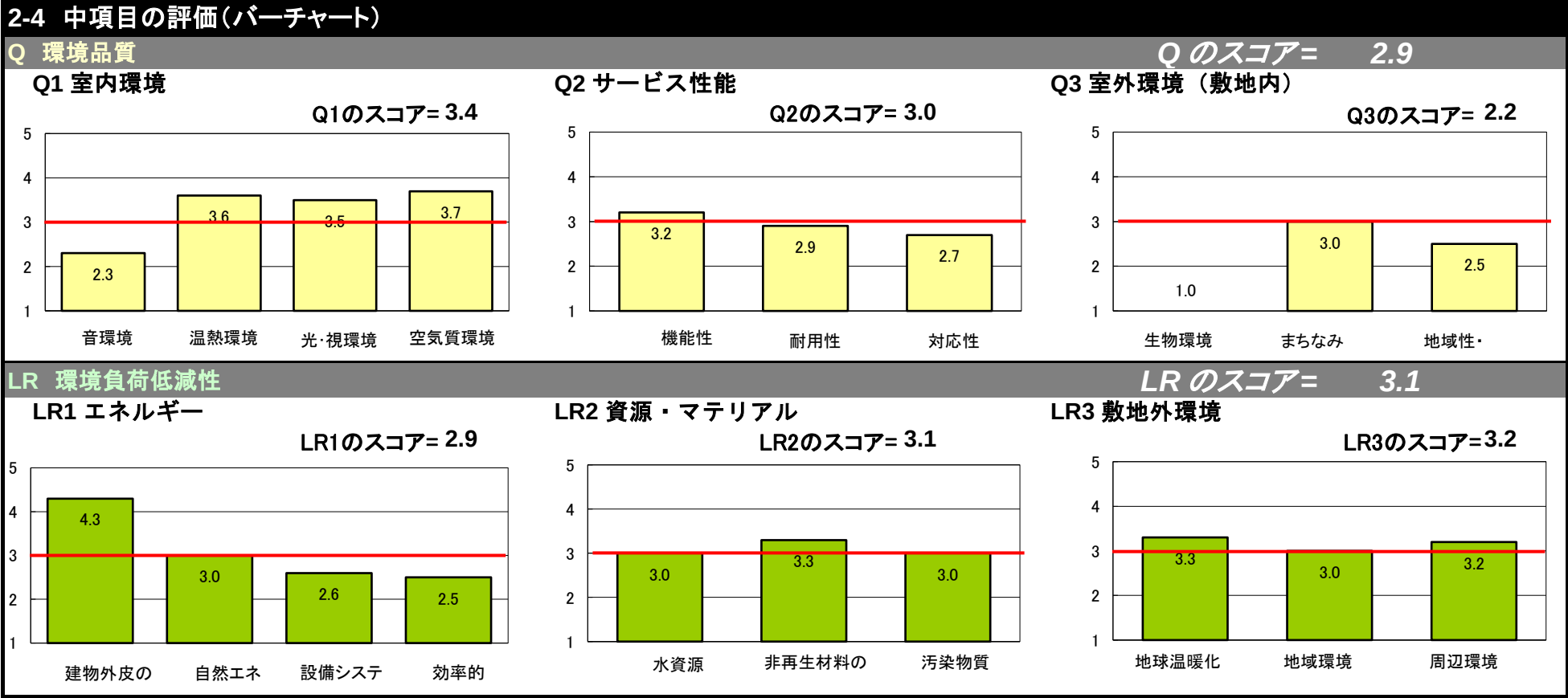
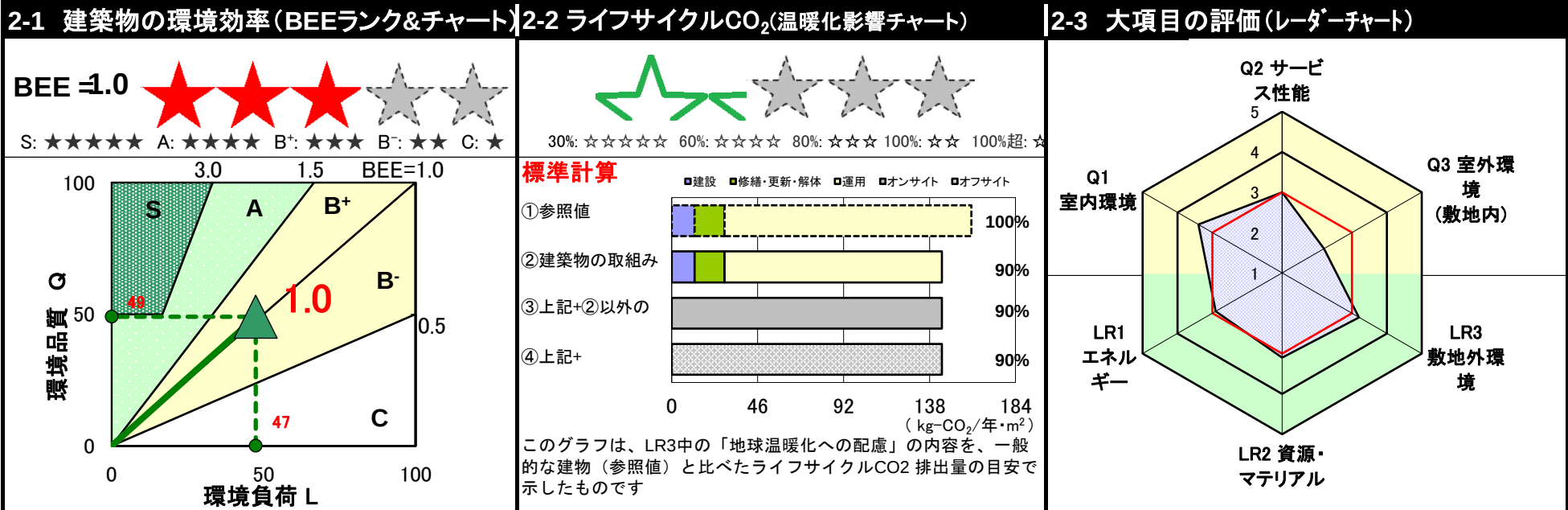
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)サービス付き高齢者向け住宅	階数	地上7階、地下0階	
建設地	熊本市北区室園町290番、291番	構造	RC造	
用途地域等	近隣商業	平均居住人員	200 人	
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2024年4月 予定	評価の実施日	2022年11月10日	
敷地面積	1,515 m ²	作成者	株式会社 建吉組一級建築士事務所	
建築面積	805 m ²	確認日	2022年8月24日	
延床面積	3,988 m ²	確認者	株式会社 建吉組一級建築士事務所	



3 熊本県重点評価結果			重点事項の評価(レーダーチャート)	
重点事項総合評価			評価点 = 73	
重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進			76.1	
重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現			65.0	
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全			75.0	
重点事項4: 循環型社会の実現			74.7	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)サービス付き高齢者向け住宅「サンあさひの」

評価点が3超の項目

水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.40		-	3.4	
1 音環境				2.1	0.15	2.4	1.00	2.3	
1.1 室内騒音レベル		40dB(A)、診療室 50dB(A)、待合室 35dB(A)、病室		3.0	0.40	4.0	0.40		
1.2 遮音				1.8	0.40	1.6	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				1.0	0.60	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	1.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				3.7	0.35	3.5	1.00	3.6	
2.1 室温制御				3.7	0.50	3.2	0.50		
1 室温		夏期:24℃、冬期:24℃		5.0	0.38	5.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.25	1.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		加湿機能有 冬期:50、夏期:50%		5.0	0.20	5.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.3	0.25	3.6	1.00	3.5	
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		共用部:2.68% 住居部:1.31%		5.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		庇、ブラインドの設置		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.9	0.25	3.6	1.00	3.7	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性				2.2	0.40	4.0	1.00	3.2	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		個室10㎡/床以上、多床室8㎡/床以上		-	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観		天井高:2.5m		-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			共用部 比率:0.30(1階フロア)住居部 比率:0.18、0.17(住戸Aタイプ・Bタイプ)	3.0	0.30	2.2	0.50	
1	階高のゆとり	3.0		0.60	1.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	3.0		0.40	4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0		0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	3.0		0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	3.0		0.10	-	-		
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.87	4.3	0.20	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]: 0.88	2.6	0.50	-	-	2.6
4 効率的運用				2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			—	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			—	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			GL工法 置床下地	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			LCCO ₂ =90%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場を確保し、敷地内車路を一方通行とした	4.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策がイトラインの過半を満たし、広告物照明の設置なし。	5.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

■ 環境関連の配慮事項

(仮称)サービス付き高齢者向け住宅「サンあさひの」

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合		外壁は周辺環境の景観と調和するような色合いとしている。また幹線道路沿いには、緑地帯を設けまちなみへの配慮を実施している。
Q1 室内環境		・F☆☆☆☆建材を使用。 ・全館禁煙とし、施設内の空気質環境に配慮。 ・1階には、外部の方を招いて講習会等に利用できる地域交流ホールを設けている。
Q2 サービス性能		・各居室は個別のルームエアコンとし設備更新に配慮している。
Q3 室外環境 (敷地内)		・敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。
LR1 エネルギー		・西側窓には熱線反射型のLow-eガラス、その他もLow-eガラスを採用し、遮熱性能を高めている。
LR2 資源・マテリアル		・断熱材は全てノンフロン。
LR3 敷地外環境		・敷地内は一方通行とし、出入口付近での車両の交通状況に配慮した計画としている。
その他		

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	(仮称)サービス付き高齢者向け住宅「サンあさひの」	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果					総合評価点	73
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				76.1	0.40	30.44
Q1-2.1.2	外皮性能	1.8	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.6	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.3	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.7	0.20	14.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数